産業構造の変化

小松」にも深刻な影響が及んでいる中、が大きく落ち込み、「モノづくりの町おりからの「石油危機」で世界の景気昭和四十八年(一九七三)十二月、

これは小松製作所をはじめ、機械、工団地協同組合」が発足した。目で、一五の企業が結集して「小松鉄県と市が開発した小松市工業団地一丁

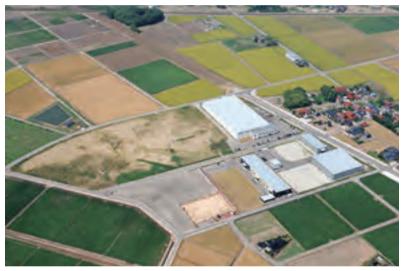


小松工業団地

鉄鋼、 社数も一八社に増加していた。 のは昭和五十六年三月で、 ○平方景、 振興に邁進し、最終的に六七万五〇〇 領に掲げ、 を眼目として企画されたものであった。 鉄道等の交通ネットワークを利用した 況を乗り越え近接する空港、高速道路、 きた市の企業集積をさらに促進し、不 臨空産業都市」へと飛躍させること 同組合は「信頼・協調・公平」を綱 繊維等の企業が活発に活動して 官民協同の下で地域産業の 四九区画の団地が完成した 組合員の会

集結し、また加賀産業道路に面して県平方は、一五区画の「南部工業団地」を整備し、企業誘致に努めた結果、ジを整備し、企業誘致に努めた結果、ジをを構し、企業誘致に努めた結果、ジースをでは、一五区画の「南部工業団地」





矢田野工業団地



串·南部工業団地

二ツ梨インターと北陸自動車道片山津イ 業団地」、また「南部工業団地」と道 ンター及び空港を結ぶ線)に面して七万 中の南加賀道路(八号線小松バイパスの 路を挟んで二〇万四〇〇〇平方景の 三〇〇〇平方は、3区画の「矢田野工 「串地区工業団地」も造成し、インター

都金沢へのアクセス等も良好な国府台

が分譲完売した。

そのため、新たに国道八号線と建設

た結果、平成十八年三月で全ての区画 し、ここでも積極的な企業誘致に努め ○区画の「東部産業振興団地」を造成 の丘陵地に四五万九〇〇〇平方景、二

の未来を担うことが期待されている。 策ISOの適合等、 た。これらの新工業団地群は、環境対 出すなど、新機軸の広報活動を展開し ネットの動画サイトで企業誘致に乗り 臨空産業都市小松

(平野 優)

213